

ベストのフローア用マットレスを目指して なぜ2レイヤーマットレスにたどりついたのか？

「エアウィーブが良いんですか？」って真央ちゃんは悪くないけどねえ

昨年からお客様から一番良く聞いたのは？「真央ちゃんのマットレスが良いらしいってホント?」。もう一つは中田久美さんの「トゥルースリーパー」両方ともTVCMがハンパじゃないので無理もない。それと「高反発が良いんですか?低反発が良いんですか?」これも多いが、私としては単純に悪いとも良いとも言えない。体格や寝姿勢によって最適なものは変わってくるからなのだけれど、まあ、敷寝具選びというのは靴選びのようなものだ。簡単なようで難しいが、自分に合うものを見つけることは重要だ。

敷寝具は長く使うとへたってくる。これが一番の問題だった

いままでいろんな敷寝具を扱ってきたが、長年頭を悩ませていたのは、使っているうちにへたって来て寝心地が変わるということだった。何十キロもある身体を1日6~7時間365日支えるわけだから、敷寝具には相当なストレスがかかる。特に一番重いお尻はの部分をもっともへたりやすい。新品の段階では、どんなマットレスでも、よほど相性が悪い以外はそこそこの寝心地が得られるのだが、何年か使っているとへたる。特に低反発ウレタンはむごい結果となる。高反発タイプのウレタンでも、どうしてもお尻の部分だけがへたって寝にくくなる。



12年の品質保証がされている?ホント?

マットレスの中には長期保証を付けているものがある、「12年は使えますよ」と説明しているが、これも問題。というのも、保証書にあるのは変形の保証をしますよ、ということなのだ。だから見た目は変形せずに変わらないように思えても、実際には弾力性が低下してしまう。つまり、実際に寝ると腰が落ち込んでしまうなど、12年ちゃんと使えるわけではない。ここに大きな落とし穴がある。実際へたらない敷寝具はない訳で、いかに長く使えるかを考えなければならないのだ。

一枚ものは腰がへたると、お手上げ。薄いと横向き寝には対応ができない。

エアウィーブ、トゥルースリーパーなど一般に良く聞くこれらのマットレスは、一枚ものが圧倒的に多いが中央部がへ



たととそこでお手上げ。薄いと肩の出っ張りが受け止められないので、せめて8cmぐらいの厚さは必要だ。

そこで今までは、厚めの三つ折マットレスをおすすめしてきた

三つ折タイプのマットレスをよく見ると、ファスナーがついていて中身のローテーション、つまり入れ替えができる。へたりが出てくるのは中央部分がほとんどだから、荷重のかかっていない両端と中身を取り換えることで、長く使うことができるという訳なのだ。敷布団って一回購入すると10年以上使い続けることが多いから、寝心地を長く保つためにはこの方法が良い。



最近、フローリング床が増えるとともに、カビが生えるトラブルが増えてきた

ウレタンのマットレスをフローリングに敷きっぱなしにしたらカビが生えてしまった、というトラブルが昨今非常に増えてきた。フローリングは畳と違って湿気が逃げるところが無い。保水性があって、フローリングと面で接するウレタンはカビのリスクがとっても高いので、これの対策も大きな問題になってきた。

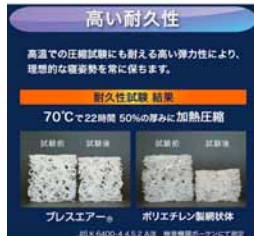
中身を取り換えて交換できるようにしたら、と考えたのだが・・・

整圧やムアツふとんのメーカーに、へたったりカビが生えたりしたらパーツだけでも取り換えることができるのか、と長年提案してきたのだけれど、小さな布団屋のということなど大手のメーカーは取り合っちゃくれない。考えますといわれてのりくらり。これではちががあかない、ということでオリジナル品の開発にとりかかった。

(裏へつづく)

改良されたブレスエア素材を選ぶ

ブレスエアはエアウィーブと同じような、中がほとんど空気でできている東洋紡が開発した素材。グリーン車などにも使われてきた長年の実績がある。エアウィーブに比べても耐久性に優れている。ただ変形するときにメリッという音がするのが最大の欠点だった。実は20年以上前にサンプルを作ってみたのだけれど、音が眠りを邪魔してしまったのだ。その音が小さくなった改良型があるという。汗の素早い発散を考えると、マットレスは空気がスムーズに入れ替わる素材が理想だ。そこで2種類の硬さのブレスエアを組み合わせることにした



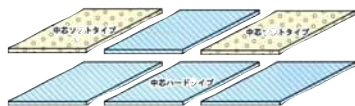
右のポリエチレンというのがエアウィーブ

2レイヤーマットレスIの誕生

厚さ 3.5 cmのブレスエアを中央部は固めの2枚合わせ、両端は横寝するときに肩をやさしく受けられるように柔らかめを上側に固めを下側にして、都合6枚のブレスエアを使った三つ折マットレスを作りました。側は中国製であったけど、たまたまラッセルという通気性の良いものがあったので、それを利用した。特に通気性は抜群で、風呂場でシャワーを使って丸洗いでできるぐらいであったので、問題なし。カビもできにくくなり、パーツを入れ替えたり、買い替えたりできるようにしたので、耐久性も向上した。



ブレスエア
左がハード
右がソフト
94%が空気で
できている



いくつか改良すべき点がでてきた・・・

ブレスエア単独では通気性が良いのだが、保温性に難点がある。ただ、その上に羊毛100%の敷布団を組み合わせるので、保温性に問題はないだろうと考えていたのだが、極寒時の日本家屋では冷えが感じられるという。個人差があるが、なんらかの手だてが必要になった。

一方、体重のある男性で仰向け寝中心の場合、腰の落ち込みが気になるというアンケート結果も出た。また、ラッセルの生地は通気性が良いのだが、上に載せる羊毛敷布団がすべりやすい、というご意見もあった。

結論からいうとブレスエア単独では限界があるということ、複合素材での改良を行うことにした。

2レイヤーマットレスIIにバージョンアップ

いくつかの素材を試してみたが、最も相性が良かったのはパワーロフトというソフト固綿を2枚重ねて使うことだった。パワーロフトはブレスエアに比べて反発力が高く腰の落ち込みが少ない、しかも保温性も確保できる。ブレスエアを下層にパワーロフト2枚重ねを上層にすることで、両方の問題を解決する一歩となった。側地も、ラッセル生地とトリコットニットを組み合わせるものを国内で縫製して、滑りを軽減することにした。2種類の硬さのブレスエアとパワーロフトの3種類を自由に組み合わせ、最適な硬さを試行錯誤できる。夏はブレスエアを上部に持っていけば、通気性を重視した寝心地が得られるなど、バリエーションに富んだ使い方ができるようになった。さらに、このバージョンからは側や中身を単独で販売できるようにしているので、後でパーツの買い替えができ長く使える。

上部がパワーロフト
下部がブレスエア



さらに固めをご希望される方に 2レイヤーマットレスIIIを企画中

最近のマットレスは体圧分散機能を打ち出しているために表面が柔らかいものが多い。ただこのようなタイプだと腰の落ち込みが感じられ、寝姿勢がくずれやすく耐久性にも問題がある。さらにしっかりした寝心地を求められる方にそこで現在、スーパーハードタイプのブレスエアを調達中である。この上にはパワーロフトよりもさらに腰がしっかりしたV-LAP 固わたを組み合わせることを予定している。中の素材が固くなった分、側地はキルティングタイプにする予定だ。

羊毛敷との組合せは必須

定期的なローテーションで長く使う

理想のフロー用マットレスを求めて、いろいろと試行錯誤を行ってきたが、いずれにせよマットレスを単体で使うということはおすすめできない。基本的には羊毛敷ふとんと組み合わせることにより、快適な睡眠環境、温度 33°C湿度 50%をキープすることができるのだ。

また、中の素材をローテーションすることで、長く使うことができるようになる。今回なんとか、ご満足いただけるマットレスができたかと思うが、これからもマットレスを極めていきたい。(沢田昌宏)